
経済学部における BYOD の導入について

経済学部教授 榎 原 雄一郎

1. はじめに

経済学部では、2022年度秋学期より経済学ワークショップⅡにおいて、一部のクラスを除き、BYOD (Bring Your Own Device) で授業を開始した。また、それに先立ち、2022年度春学期の経済学ワークショップⅠや経済学特別演習(PCスキル入門)の2科目においても、一部でBYODを導入している。本稿では、経済学部において2022年度より本格的に導入したBYODについて、その経緯と制度設計を説明する。

まず2.では経済学部におけるBYOD導入の経緯と当初想定された課題について述べる。その上で経済学部のBYODの制度設計の特徴が、クラスごとで使用するOSの統一にあることを確認する。続いて3.と4.ではBYODでクラスごとで使用するOSの統一をどのように達成したのかを説明する。3.ではBYODの流れについて、学生が所有するPCの確認の方法を中心に説明する。4.では経済学ワークショップⅡを事例に、そこでのクラス分けの方法と教員・TAの担当クラスの調整について説明をする。5.ではBYODを実施するクラスでの学生をサポートするPCの貸し出し制度について説明をする。

2. 経済学部における BYOD 導入の経緯

2-1 BYOD 導入の経緯

経済学部においてBYODを導入した経緯としては以下の2つの理由があげられる。

一つ目は社会においてBYOD推進の機運が高まったことである。文部科学省が打ち出したGIGAスクール構想では一人一台の学習用PCを持つことがうたわれている¹⁾。今後、GIGAスクール構想下で一人一台のPCを持って教育を受けた学生が本学に入学してくることが予想された。また、企業においてもBYODの導入が進み、現在のビジネスの世界ではBYODの導入が大きなトレンドとなった(Cisco IBSG 2012; 野村総合研究所 2013など)。こうしたビジネスの世界のトレンドに対応できる人材を育成するためにも、経済学部としてもBYOD

1) 文部科学省 HP「GIGA ハイスクール構想の実現について」
https://www.mext.go.jp/a_menu/other/index_00001.htm

に積極的に取り組む必要がでてきたのである。

二点目が経済学部における新カリキュラムの導入とそこでの新たな科目への対応である。経済学部では2021年度入学生より新カリキュラムを開始した。新カリキュラムにおいて中核を担う科目の一つが経済学ワークショップⅡである。後述のように、経済学ワークショップⅡは、2年次配当の履修必修科目であり、PCを使用して実習形式で今後の経済学の学習に必要な統計学や計量経済学の基礎とデータ分析を学ぶ。また、同科目は新カリキュラムにおける2年次の少人数科目としての役割を担うことになる²⁾。しかしながら、経済学ワークショップⅡをPC教室でのみでの開講とした場合、一クラス当たりの人数が大きくならざるを得ず、少人数クラスでの開講ができないという問題を抱えていた。そこで経済学ワークショップⅡにおいて、開講クラス数を増やし少人数クラスを実現するために、BYOD導入の可能性が検討された。

以上の経緯から、経済学部において全面的なBYODを導入することを決めた。2021年2月より当時学部担当副学部長であった筆者がBYOD推進の責任者となり、2022年度からの導入を目指して準備を進めることとなった。

2-2 導入にあたり当初想定された課題

経済学部でBYODを導入するにあたって、当初想定された課題としては以下の4点があげられる。

(1) 設備の問題

現在大学では各教室にWi-Fiの整備を進めているが、多くの学生が学内で同時に接続をしようとした場合、キャパシティが不足する可能性があった。また、経済学部がある第2学舎にも現時点でWi-Fiが整備されていない教室が一部残っていた。さらにPCを充電するためのコンセントは限られた部屋にしかなく、充電をどうするのかは重要な課題であった。そこで経済学部ではWi-Fi設備の整備に加えて充電設備についても整備を進めるよう大学執行部をはじめ関係部署に要請した。

もっとも、こうした設備の問題は解決まで時間がかかることが予想される。また学部独自で対応できることも限られている。そこで、例えばPCの充電については、こうした設備面での整備に加えて、学生が自身のPCを事前に自宅で充電する習慣づけを促していくことにした。

(2) PCを購入できない学生へのセーフティネットの整備

経済的な理由等によってどうしてもPCを準備できない学生に対してどのようなセーフテ

2) 旧カリキュラムでは経済学演習が2年次秋学期から開始されたが、新カリキュラムでは経済学演習の開始が3年次春学期に半年後ろ倒しされることになった。

インターネットを張るのか検討を進める必要があった。

(3) PC 忘れの学生への対応

BYOD クラスで PC を忘れた学生についてどのように対応するのも重要な課題であった。PC を忘れた学生を教科書忘れの学生と同様に扱うのか、また PC を忘れた学生が授業への出席を希望した場合の対応をどうするか等について検討を進める必要があった。特に BYOD の導入初期では、クラス編成の余裕を持たせるため、一部で PC 教室を残すことを想定していた。このため、BYOD のクラスと PC クラスが並行して開講される中で、PC 忘れが問題とならない PC クラスと BYOD クラスの PC 忘れの学生の間で公平性を保つためにも本件は重要な課題であった。そこで短期貸し出し用の PC を一定程度準備することができないか検討した。

(4) クラス内における OS の混在の問題

経済学部で BYOD の導入を予定する経済学ワークショップⅡは、後述のように実習形式で統計学や計量経済学の基礎を学びながらデータ分析を行う科目である。そのため、学生によって使用する OS やソフトのバージョンが混在する状況では、授業の進行に問題が出てくると同時に、学生の理解も進まないであろうことが懸念された。

この問題を解決するために、経済学部の BYOD では Windows クラスと Mac クラスを設けることによって、クラスごとに使用する OS を統一することにした。授業のスムーズな進行と学生の理解のため、クラスごとに OS を統一しているのが経済学部の BYOD の最大の特徴である。

3. 経済学部 BYOD の流れ

3-1 BYOD で開講するクラスとその流れ

2. で述べたように、経済学部における BYOD で最も重要となるのが、クラスごとに使用する OS を統一することである。クラスごとに OS を統一するため、事前に学生にアンケートを実施し学生が所有している PC の OS と、配属されるクラスの授業で使用する OS のマッチングを図っている。具体的には、経済学部では関大 LMS を通じて学生に PC の有無や OS を問う「BYOD に関するアンケート」（以下「BYOD アンケート」）を実施し、クラス分けに利用するデータベースを作成することにした。

なお、BYOD で開講する科目は「ワークショップⅠ」（1年次春学期）、「経済学特別演習（PC スキル入門）」（2年次春学期）および「ワークショップⅡ」（2年次秋学期）の3科目である。各科目で開講するクラスは次の表1のとおりである。経済学ワークショップⅠは PC の使用回が2回のみのため BYOD における Mac クラスを開設しないこととした。経済学特

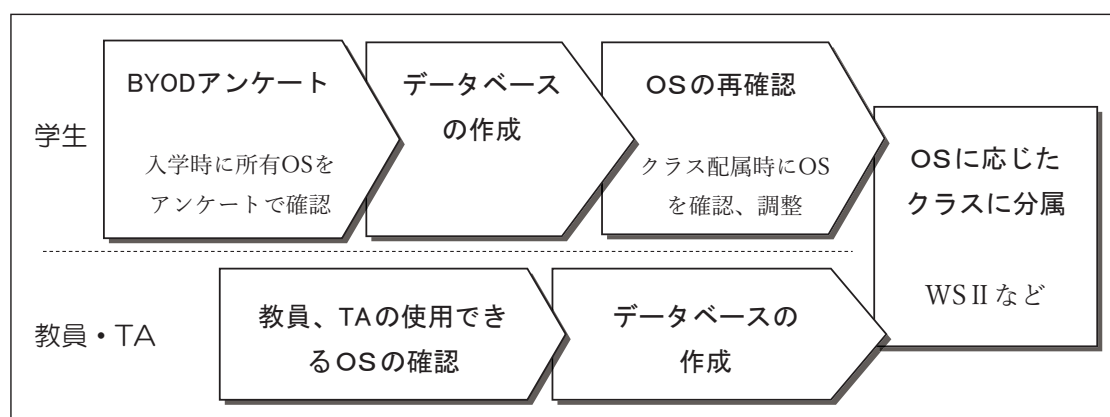
別演習（PCスキル入門）は担当する教員でMacで授業をすることができるものがないため、BYODはWindowsクラスのみを開講とし、他のPCの所有者はPCクラスで対応することとした。

表1 BYODで開講するクラス

	学生が所有するPCのOS			
	Windows	Mac	Chromeほか	所有PCなし
経済学ワークショップI	○		PCクラスで対応	
経済学特別演習（PCスキル入門）	○		PCクラスで対応	
経済学ワークショップII	○	○	PCクラスで対応	

（出所）著者作成。

ここからは経済学部におけるBYODの流れについてみてみよう。毎年入学時のガイダンスを活用して「BYODアンケート」を実施する。2022年度入学生では2022年4月1日の新入生行事において本アンケートを実施している³⁾。それに基づいてデータベースを作成し、ワークショップI以降のクラス分けに活用する。なお、入学時に行う「BYODアンケート」から2年次秋学期の経済学ワークショップIIまで長い期間があることから、途中で所有しているPCが変わる可能性があることを想定し、授業の開始前に所有するPCのOSの再確認と配属クラスの調整をおこなった。クラス配属時にOSの変更があった場合は申し出るよう学生に周知を行い、申し出があった学生のクラスを調整することとした。経済学部のBYODの流れは次の図1の通りである。



（出所）著者作成。

図1 経済学部のBYODの流れ

3-2 アンケートの内容と実施方法

ここでは「BYODアンケート」の内容と実施方法について見ていきたい。本アンケートの

3) 制度開始時に既に入学している2021年度入学生については、2021年12月20日(月)から2022年1月12日(水)にかけてアンケートを実施した。実施にあたっては必修科目であるマイクロ経済学入門IIの時間を使用し、アンケートの実施を促した。

内容は以下の囲みのとおりである。

経済学部では大学の講義で自分自身のPCを活用した講義を行っています。本アンケートはワークショップ等でのクラス分けのため、皆さんのノートPCの所有状況について確認をするものです。Q1～Q2に回答をしてください。

Q1 あなたは大学に持ってくることができるノートPCを所有していますか？
 ① 所有している⇒Q2へ ② 持っていない⇒アンケート終了

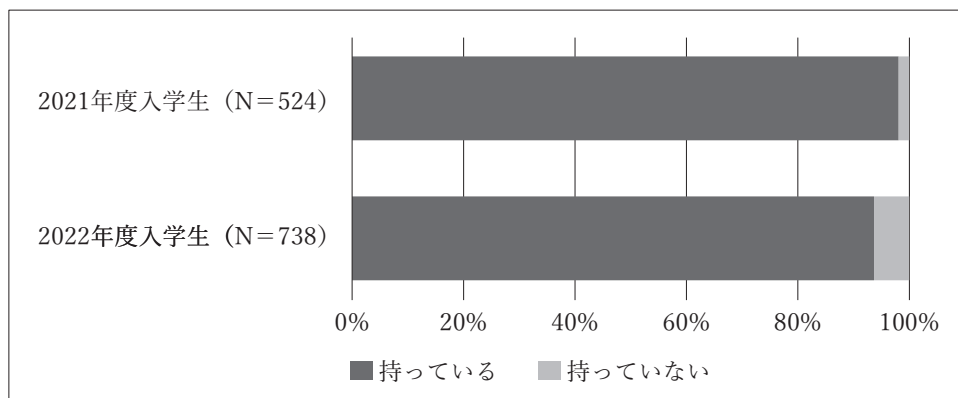
Q2 Q1で「① 所有している」と回答をした人に質問です。持ってくることができるノートPCのOSは何ですか？
 ① Windows ② Mac ③ Chrome OS ④ わからない

アンケート実施に際しては、QRコードがついた紙の案内文を学生に配り（文末の写真1）、その場でQRコードからLMSにアクセスさせ回答をさせた。

以下では、2021年度入学生および2022年度入学生に対して行った2回のアンケート結果についてみていこう。2021年度入学生向けにおこなったアンケートでは、対象学生が本制度開始時に既に入学していたことから2021年12月20日(月)から2022年1月12日(水)にかけて実施した。経済学部の必修科目であるミクロ経済学入門Ⅱの時間を利用して回答を促すことで、対象者が757名に対して524名から回答を得た。回答率は69.2%である。

2022年度入学生向けにおこなったアンケートでは、2022年4月1日の入学式の後の学部ガイダンスの時間を使用して行い、対象者744名に対して738名から回答を得ることができた。回答率は99.2%であった。2022年度入学生については入学式の後のガイダンスでアンケートを行い、その場で回答をさせたことから高い回答率を得ることができた。

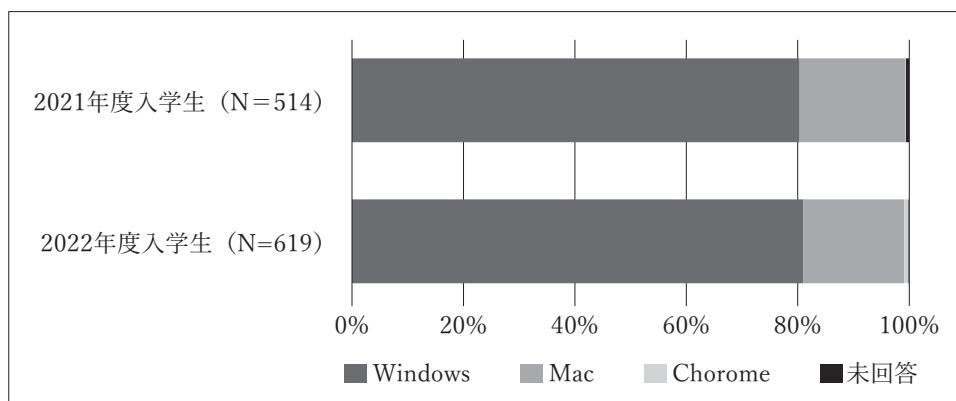
BYODアンケートでは、まず大学に持ってくることができるPCの有無を聞いている。回答結果が次の図2である。2021年度入学生では98.1%が持っていると回答した（N=524）。また、2022年度入学生では93.6%が持っていると回答した（N=738）。



(出所) BYODのアンケート結果より著者作成。

図2 大学に持ってくることができるPCの有無

次いでBYOD アンケートでは大学に持ってくることができる PC の OS の種類について聞いている。回答結果が次の図3である。2021年度入学生では Windows が80.4%、Mac が18.9%、Chrome OS が0.2%、未回答が0.6%となった (N = 514)。2022年度入学生では Windows が81.0%、Mac が18.1%、ChromeOS が0.7%、未回答が0.1%となった (N = 691)。



(出所) BYOD のアンケート結果より著者作成。

図3 大学に持ってくるすることができる PC の OS の種類

さて、2021年度入学生向けにおこなったBYOD アンケートは、経済学部で全面的にBYODの導入が可能かを占うという意味でも極めて重要なアンケートであった。同アンケートの結果から、経済学部の学生の多くは大学に持ってくるノート PC を有していることが明らかになり、経済学部においてBYODを導入することが十分可能であることが示された。その一方で、想定をしていた通り Mac を使用している学生が相当数いることが判明した。

3-3 BYOD 導入についての周知

経済学部では本格的なBYODを実施する準備段階として、まずはご父母にご理解をしていただくため、教育懇談会などの父母がいらっしゃる場で積極的にBYODの導入の必要性について説明を進めた。

例えば、2022年度入学予定の合格者及びご父兄への書類には「「BYOD (Bring Your Own Device)」のためのパソコン等の用意について」という案内文を送った。同案内文ではBYODを導入する企業が増えてきていることを伝え、BYOD導入の意義について説明をした上で、学部では自分自身のPCを利用した授業を行うので、入学前に必ずPCをご用意いただくようお願いするようにした。

なお、同案内文では、BYODで必要となるPCのスペックではなく、OSの統一を意図した文とした。具体的には、経済学部の授業ではWindowsかMacのいずれかのOSで授業をするので、これらのOSを搭載したPCを準備してほしい旨を案内文で伝えている。

4. 経済学ワークショップⅡの概要とクラス分け

4-1 経済学ワークショップⅡの概要

ここでは経済学ワークショップⅡを事例にどのようにBYODを導入したのかについてみていく。まずは経済学ワークショップⅡの概要について確認をしよう。経済学ワークショップⅡは、PCを利用し実習形式で行う授業であると同時に、経済学部の2年次における少人数教育の柱となる科目である。本科目の履修上の取り扱いは、すべての経済学部の学生が履修をしなければならない履修必修科目である。

経済学ワークショップⅡは、大学および経済学部での学びをサポートするために、以下の3つの点を教育上の目的としている。すなわち、①データ分析に必要な最低限のExcel操作スキルを身につけさせること、②データセットの構築から、基本統計量の導出、簡単な回帰分析までを一通り自分でできるようになること、および③経済学部での学習に必要なグループワークの能力を養成すること、である。具体的な授業の内容とそれに伴うクラス分けは次の4-2で説明をする。

4-2 経済学ワークショップⅡのクラス分け

経済学ワークショップⅡでは学部学生の統計・計量に対する知識の差を考慮し、レベルに応じてクラスを分けることにした。クラス分けは前年度の経済ツール入門の成績を利用し⁴⁾、経済ツール入門の成績で上位の学生をワークショップⅡの上級クラスに配属することにした。それ以外を標準クラスとするが、標準クラスの中には統計・計量が苦手な学生を集めたクラス(「標準クラス(基礎)」)を設けることにした。このクラスは1クラスあたり20名程度の少人数制とし、TAを重点的に配置することによって学生の理解を深めるよう努めることとした。

ワークショップⅡでは原則BYODでの開講とし、BYODで授業を行うクラスではWindowsクラスとMacクラスを設けることとした。一部でPC教室を使用するクラスを用意し、PCがない学生やChromeOSのPCを持っている学生についてはPC教室を使用するクラスに配置することとした。また、2022年度は新型コロナの流行が続き、入国できない等の理由から対面で授業を受けることが難しい学生が一定数いることが予想されたことから、標準クラスで1クラス遠隔クラスを設けることとした。なお、遠隔クラスは人数の関係からWindowsのみの開講としている(表2)。

4) 経済ツール入門の成績を経済学ワークショップⅡのクラス分けに利用したのは、経済ツール入門の授業内容が経済学ワークショップⅡに近いためである。

表2 ワークショップⅡのレベルによるクラス分け

	想定される開講クラス数	授業の内容	開講するクラス
a 上級クラス	8～9クラス程度	標準クラスの内容に加えて確率分布、中心極限定理、有意水準、多重共線性など	BYOD (Windows, Mac) および PC クラス
b-1 標準クラス	13～14クラス程度	基本統計量、データの可視化、仮説検定の基礎、線形回帰の基礎など	BYOD (Windows, Mac) および PC クラス、遠隔クラス
b-2 標準クラス(基礎)	2クラス程度		

(出所) 著者作成。

上記のクラス分けの方針の下で、「BYOD アンケート」結果に基づいて調整をおこなった結果、2022年度における経済学ワークショップⅡの開講クラス数は表3の通りとなった。

表3 2022年のワークショップⅡの開講クラス数

	BYOD (Windows) クラス	BYOD (Mac) クラス	PC クラス	遠隔クラス
上級クラス	3	2	2	0
標準・基礎クラス	11	4	2	1

(出所) 著者作成。

4-3 教員・TAの担当クラスの調整

経済学ワークショップⅡでは、BYODで行うクラスの一部をMacクラスとしての開講とするため、Macを使用して授業を行うことができる教員にそのクラスを担当してもらうことが必要であった。

そこで経済学ワークショップⅡの担当をされる可能性がある教員について、事前にMacを使用した授業の可能性について確認をするアンケートを実施し、教員ごとに授業で使用できるOSについてのデータベースを作成した。具体的には「普段からMacを利用している」もしくは「Macで講義できる」と回答をされた教員には、2022年度の科目依頼時にBYODのMacクラスの担当をお願いした。

また、経済学ワークショップⅡではTAを希望する教員のクラスにTAを配置しているが、BYODのMacクラスにはMacを使用できるTAを配置することが必要となった。そこでTAについても使用できるOSについて事前に確認をすることで、TAが使用できるOSと配置するクラスで使用するOSについての調整を行っている。

以上から、経済学ワークショップⅡでは、学生が所有しているPCのOSと教員が使用できるPCのOSおよび同TAの3者でマッチングをおこない、それぞれのクラスでOSを統一することによって、混乱なく授業を進められるよう配慮している。

4-4 OSの再確認とクラスの調整

2022年度の経済学ワークショップⅡでは学生の配置クラスについて事前の連絡をしている。

そこでは事前のBYODアンケート時の所有PCと、クラス配属時に所有するPCのOSの変更があった場合は申し出るよう学生に周知を行い、申し出があった学生のクラスを調整することとした。学生への周知は、インフォメーションシステムの「お知らせ」機能を利用し、2022年9月6日および同9月17日の2回にわたり周知を行った。周知の内容は自身のクラスが(1)「BYODクラス」か「PC教室クラス」か、(2)BYODクラスである場合、「Windowsクラス」か「Macクラス」か等である。その結果、授業開始時までにOSの違いにより3名の学生からクラス変更の申し出があり、クラス変更を行った。

一方、こうしたインフォメーションの情報を見ていない学生が一定数いることも懸念された。そこで経済学ワークショップⅡの各BYODクラスの第1回目の授業で、そのクラスで使用するOSについてを確認をし、所有PCのOSと異なる場合には至急教務センターに申し出るよう説明をしてもらった。その結果、第1回の授業開始後にOSの違いにより6名の学生からクラス変更の申し出があり、クラス変更をおこなった。

4-5 「Office365インストール回」の設定

経済学部のBYODの特徴がクラスごとでのOSの統一にあるのはここまで見てきたとおりであるが、分析に使用するExcelをはじめとしたソフトについてもバージョンの統一をする必要があった。実際、Excelのバージョンを統一せずに行った2022年度春学期のワークショップⅠのPC回では、Excelの様々なバージョンが混在する中で行ったため授業がやりづらかったという意見を頂戴した。

そこで経済学ワークショップⅡでは、前半の回においてすべてのクラスに「Office365インストール回」を設け、その場で最新のバージョンのOfficeをインストールさせることにした。Office365インストール回では通常TAを配置していないクラスにもTAを派遣し、Excelをはじめとしたソフトについてのバージョンの統一を徹底することとした。

ここまでのプロセスから、経済学ワークショップⅡではすべてのBYODクラスにおいて使用するPCのOSについて学生と教員、TAの3者でマッチングをすることによってクラスごとで統一をすることに加え、Excelのバージョンにおいても統一を図っている。こうして、各BYODクラスにおいて、同一のOSおよび同一のExcelのバージョンで授業を進める環境を整えることができたのである。

5. BYODを導入する上での学生へのサポート

5-1 BYODにおけるPCの貸し出し制度について

2.で述べたように、2022年度の秋学期の経済学ワークショップⅡで本格的なBYODを開始するのに伴い、BYODを実施する授業において、(1)経済的な理由等によってPCを準備できない学生、および(2)PCを忘れた学生への対応が求められた。これらに対応する制度を

設けることによって、BYOD クラスにおいて PC を準備できない学生および PC を忘れた学生が著しく不利益とならうように配慮することとした。

(1) 経済的な理由等で PC が買えないため BYOD の授業で PC を準備できない学生について、事前に BYOD アンケートでそれを把握できている場合は PC クラスへの配属とした。同アンケートに未回答等でそれが事前に把握できなかった学生が BYOD クラスに配置された場合は授業支援ステーションが窓口となっている、コロナ禍における遠隔授業サポートによる全学の PC の貸し出し制度を利用することとした。経済学ワークショップⅡを開始する直前の2022年8月24日段階では、60台程度貸し出し用の PC があるとのことで十分の数の PC があることを確認している。

(2) PC を忘れた学生に対しては、当面の対応として学部で独自の PC の短期貸し出し制度を構築することにした。本制度の貸し出しの対象となるのは、学部で指定した科目（ワークショップⅠおよびⅡの2科目）において BYOD クラスに所属する学生で授業日に PC を忘れたものとする。これら以外の学生は本制度の対象外とした。2つの PC の貸し出し制度の違いは以下の表4のとおりである。学部独自の PC の短期貸し出し制度の詳細については次の5-2で説明をする。

表4 2つの PC 貸し出し制度の違い

理由	対象の制度	貸し出し期間	対応窓口
(1) 経済的な理由等で PC を所有していない	コロナ禍における遠隔授業サポートによる全学の PC 貸し出し制度	年単位	授業支援ステーション
(2) 指定科目の BYOD クラスで PC を所有しているが忘れた	経済学部独自の制度	授業日当日のみ、1日単位	経商オフィス

(出所) 著者作成。

5-2 学部独自の PC の短期貸し出し制度

以下では学部独自の PC の短期貸し出し制度について説明をする。

経済学部では短期貸し出し用の PC として Windows を 6 台、Mac を 2 台準備した。いずれの PC も授業で使用する Office365 をインストール済で、事前に動作確認もしている。個人情報や課題レポート等の流出防止を目的とし、PC ログアウト後は保存データが抹消される設定とした。

学部が指定した科目の BYOD クラスで、PC を忘れた等の理由によって PC の短期貸し出しを希望する学生は、授業当日の12:30-16:30の間⁵⁾に経商オフィスにその旨を申し出る。本人確認のため必ず学生証を持参することとした。貸し出す期間は1日単位とし、その日の授業終了後に直ちに返却するものとした。

5) 貸し出しの受付を16:30までとしているのは経済学ワークショップⅠおよびⅡが5限目に配置されているからである。

PCの貸し出しは受け付けの先着順とした。ただし、特定の学生が本制度のPCを専有することがないように、貸し出しは1回目の学生を優先することとした。2回目以降の学生は、授業開始の15分前（当日の16:05）にPCが余っている場合にのみ貸し出すものとし、特定の学生の専有を防ぐ制度を組み込んだ。本制度における利用回数と優先順位は次の表5のとおりである。

本制度の周知については、制度の概要についてワークショップⅡのBYODクラスの担当者から第1回目の授業でもらった。ただし、BYOD本来の趣旨から、本制度の利用を推奨するような積極的な周知はしないものとした。

また、本制度でPCを利用した学生は、PC内にデータを保存しないよう注意喚起を行った。必ず自身のDropbox等に保存するよう促している。BYOD本来の趣旨にかんがみ、本人のPC忘れが続き本制度の利用が常習化した学生については執行部の担当者が当該学生を指導するものとした。本制度は当面の措置とし、GIGAハイスクール構想が完成した後は制度の廃止を含めて見直すものとした。

表5 利用回数と優先順位

利用回数	受付時間	貸し出しの優先順位
1回目	授業日の12:30-16:30	先着順
2回目以降	授業日の16:05-16:30	16:05以降で貸し出し用PCが余っている場合のみ先着順

(出所) 著者作成。

5-3 短期貸し出し制度の利用実績

本制度の利用実績を2022年度経済学ワークショップⅡから見てみよう。経済学ワークショップⅡの第2回⁶⁾から第15回の間で本制度の利用者はのべ16名であった。ただし、このうち3名が2回利用していることから、実際の利用人数は13名となる。いずれの回においても、貸し出しを希望するすべての学生にPCを貸し出すことができた。

貸し出された機種はWindowsが15回（93.6%）、Macが1回（6.3%）であった（N = 16）。本制度を利用した理由であるが、PC忘れが5件（31.3%）、充電なしが1件（6.3%）、故障・修理中が10件となった（62.5%）となった（N = 16）。なお、本制度を2回利用した学生がいずれも故障・修理中と回答をしており、その中には自身のPCの修理をせずに放置していた学生もいた。

本制度における1日当たりの最大のPC貸し出し数は2台（2022年11月28日、同12月22日および2023年1月19日）であった。

6) 経済学ワークショップⅡの第1回目はガイダンスであるため、本制度の利用は2回目から15回目としている。

5-4 BYOD クラスにおける PC 忘れの学生の成績評価について

経済学ワークショップⅡでは多くのクラスがBYODで行われるが、一部でPC教室を利用するクラスも残している。このような状況の中で、BYODクラスの学生でPCを忘れかつ本制度でPCを借りることができなかった学生がいることも想定された。これらの学生と、PC忘れが生じないPCクラスの学生との間で不公平感を作らないために、成績をどのように取り扱うのが問題となった。

この問題に対応するために、経済学ワークショップⅡのBYODクラスで当日PCを忘れた学生は、授業への出席と期日までに課題を提出することでPCを持参した学生と同等の評価とするものとした。

もともと、5-3の利用実績でみたように2022年度の経済学ワークショップⅡでは学部独自のPCの短期貸し出し制度によって希望するすべての学生にPCを貸し出すことができたことからこうした問題は起こらなかった。

結びにかえて

本稿では経済学部におけるBYODの導入の経緯およびその制度設計について述べてきた。導入の経緯としては、BYOD実施についての社会的な機運の高まりと、経済学部としての学部カリキュラムに対する対応の必要性があげられた。

経済学部におけるBYOD最大の特徴はクラスごとでのOSの統一である。OSについてはWindowsクラスに加えMacクラスを設定することで、Macを所有する学生のニーズにも対応した。学生の所有するPCのOSについては入学時に「BYODアンケート」を実施することで把握した。あわせて、教員については、授業で使用できるOSについてアンケートを実施しデータベースを作成した。TAについても使用できるOSについて事前に確認し、それぞれのクラスで学生および教員、TAの3者でOSのマッチングをおこない、クラスごとでOSの統一を図った。また、経済学ワークショップⅡではOffice365インストール回を設けることによってExcelのバージョンの統一を図っている。


また、経済学部として全面的なBYODを開始するのに伴い、(1)経済的な理由等によってPCを準備できない学生および(2)PCを忘れた学生に対する対応について制度の整備を進めた。特に(2)BYODクラスにおいてPCを忘れた学生に対してのPCの短期貸し出し制度は経済学部独自の制度として期間限定で設定した。

以上が経済学部で導入したBYODの概要である。本制度の本格的な実施は2022年度からなので制度の問題についての検討は今後の課題となる。BYODの導入によって、経済学部の教育がより良いものになることを期待している。

参考文献

- (1) 文部科学省 HP 「GIGA スクール構想の実現について」
https://www.mext.go.jp/a_menu/other/index_00001.htm (2023年1月6日閲覧)
- (2) Cisco IBSG (2012) 『BYOD：グローバルな視点 従業員主導の変革を生かす』。
- (3) 野村総合研究所 (2013) 『ICT 分野の革新が我が国経済社会システムに及ぼすインパクトに係る調査研究 報告書』。

PCの所有についての
Web アンケート
 ご協力をお願い



《アンケートの回答期間》

2021年12月20(月)

~

2022年1月12日(水)

《アンケートの利用方法》


2022年度
 ワークショップ2等のクラス分け

Windows クラス
 Mac クラスなど

《本アンケートについて》

- ✓ 経済学部では経済学ワークショップ2等で皆さん自身のパソコンを用いた講義を行う予定としています。
- ✓ 本アンケートは経済学ワークショップ2等の科目におけるクラス分けのために皆さんのノートパソコンの所有状況を確認する極めて重要なものとなりますので必ず回答をするようにしてください。
- ✓ なお、本アンケート結果を目的外に利用することはありません。
- ✓ 本アンケートは皆さん自身のスマホ、PCを利用して行います。以下のQRコード、URLからアンケートの回答先にアクセスをしてください。

アンケート回答先



<https://kulms.tl.kansai-u.ac.jp/webclass/login.php?id=22fbb26b08d3afdb53a15d2ccb111fe5&page=1>

●本アンケートに関する問い合わせ先:教務センター 経済学部担当

写真1 BYOD アンケートの案内文